

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2692700053
法人名	社会福祉法人 成光苑
事業所名	グループ・ホーム 舞夢
所在地	〒624-0125 京都府舞鶴市宇桑飼上1088番地の1 (電話) 0773-83-0221

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年5月6日

【情報提供票より】(平成22年 2月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4)利用者の概要(2 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田中内科クリニック 舞鶴市民病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に総合福祉施設をとの思いから法人と一体となって開設された当該ホームは、地域密着型特別養護老人ホームと併設され、複合的に高齢者支援が行われています。由良川を望み加佐の山々に囲まれた豊かな地に建てられ1年が経過した当該ホームは、多くの地域行事に参加し、由良川のボート競技には職員が出演して利用者が応援したり、小学校からの訪問や地藏盆、しめ縄作りに出向いたりと楽しく交流をされています。ホームとして地域に向けた餅つき大会や夏祭りの花火大会にも多くの住民の訪問があり、職員は地域と共に利用者の支援に努めようとされています。更に利用者への個別の対応や思いに向けた支援を課題に心を合わせています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価です。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価で、各ユニット毎に職員で話し合いユニットリーダーがまとめて自己評価を作成されました。職員からは難しいとの意見がありましたが、話し合いを重ね評価や日々の支援の意義を確認されています。出来上がった自己評価表を職員は見るようにされており情報の共有が行われています。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、市職員、老人女性部委員、民生委員の参加を得て2ヶ月に1度、グループホームと上階の福祉施設と合同で行われています。ホーム行事はじめ報告事項と共に、参加者や地域からの意見が出され有意義な会議となっています。今後に向けて家族の参加の要請や家族会の企画等も話し合われ実行の意向です。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には意見や苦情は無いか尋ねたり聞くようにしており、出された意見は職員に伝えユニットで検討するなど改善に努めています。家族会の設立も検討されており、更に意見が出しやすいようにと考えられています。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、多くの地域交流の機会があります。由良川のボート競走に職員が出演し利用者が応援に行ったり、地藏盆に参加されています。小学校から度々訪問があり、児童が色紙に書いた習字を頂いたり、運動会への招待があるなど利用者の喜びとなっています。ホームでは夏祭りや餅つき大会に地域の方々に声掛け多くの参加がありにぎわっています。また、華やかな夏祭りでの花火大会には多くの地域の方々が参加され大きなイベントになりつつあります。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念はまごころと思いやり、そして地域に愛される施設と謳っています。ホームでは理念を基に職員間で話し合い、利用者の自立度に沿った生活の支援を年度目標を立てています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念を毎朝唱和し、玄関への掲示や職員の名札の裏に記載するなどいつでも確認できるようにしています。月々のユニット会議や支援の振り返り時には法人理念や目標について確認しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、由良川のボート競走に職員が出場し利用者が応援に行ったり、地藏盆への参加に呼びかけがあるなど、多くの地域行事に参加されています。小学校から度々訪問があり、色紙に児童が書いた習字を頂いたり、運動会への招待があるなど利用者の喜びとなっています。ホームでは夏祭りや餅つき大会に地域の方々に声掛け多くの参加がありにぎわっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価で、自己評価に向けて、各ユニット毎に職員で話し合いユニットリーダーがまとめています。職員からは難しいとの意見が出されましたが、話し合う中で評価と日々の支援の意義の理解に繋がられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員、老人女性部委員、民生委員の参加を得て2ヶ月に一度、ホームと上階の福祉施設と合同で行われています。ホーム行事はじめ報告事項と共に、参加者や地域からの意見が出されるなど有意義な会議となっています。今後に向けて家族の参加の要請や家族会に取り組む予定をされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員は運営推進会議に参加があり、情報のやり取りやホーム状況を伝えています。市に出向く機会もあり何かあれば話し合える状況があり改善課題の理解を得ています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の様子を伝え、家族によっては連絡帳を作り利用者の様子を伝えています。また毎月の請求書送付時には、担当者から一言書き添え伝えられたり、遠方の家族に電話などでも様子を伝えています。	○	請求書送付時に一言コメントだけではなく、行事や写真などの記録と共に定期的な情報として伝えられては如何でしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見や要望は無いかな尋ねており、出された意見は職員に伝えユニットで検討するなど改善に努めています。家族会の設立も検討されており、更に意見が出しやすい様に考えられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は毎年自己申告を行い自主目標を掲げ、管理者と面談が行われ、年2回意見や思いを言うことが出来る機会とされています。ユニット会議でも意見が出され日常的に話し合われるように努められ、創設時以来退職者はなく安定した環境で利用者の支援がなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による段階に応じた研修体制が確立しており、該当する職員は参加しています。また、ホーム内でも認知症に関する研修や、料理講習会など実務的な研修を行い、職員の質の向上を目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	舞鶴市のグループホームのネットワークを通じて、持ち回りの研修や交換研修が行われています。管理者のみならず職員の交流もあり、職員の励みとなり質の向上に向けた取り組みとなっています。また、京都府下はじめ北部のネットワークにも参加されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当って見学を勧めています。家族や利用者によっては一日のお試し利用でお茶や昼食をともにし、納得して入居が出来るようにしています。帰宅願望の強い利用者には一時帰宅や家族の協力を得ながら安定した生活になるよう工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを多く取りながら昔の話や季節の行事を聞いており、その事が職員の多くの学びとなっています。若い職員や外国人の職員に対して、利用者が漢字やその意味を教え、教える事が誇りとなるなど和気あいあいとした関わりが育まれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までのケアマネジャーや利用していたサービスからの情報を収集し、面談を重ね意向の把握に努めています。困難な利用者には何度もコンタクトを取り、日々の関わりの中で思いの把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始に当ってはリーダーが中心となって、暫定プランを作成し家族に了解を得ています。3ヶ月毎に職員、看護師、栄養師を含む担当者会議を開催し介護計画の作成を行っています。欠席職員には、担当職員の作成するアセスメント要約書で情報が共有でき、今後に向け介護計画に沿ったモニタリングの準備が進められています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度見直しを行っています。見直しに際しては職員、看護師、栄養士が参加し、各分野毎の意見を反映して介護計画を見直しています。家族の意見は事前に聞いた意見や電話にて聞いた意見を反映するようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の行けない通院の援助を行い、帰宅願望の強い利用者には家族の援助を得つつ自宅に帰ったり、周辺を見に行くなど個別の支援を行っている。墓参りの希望があったが、遠方であるため寺と相談しお参りに来ていただいた経過があるなど、柔軟に要望が叶えられるよう努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を聞きかかりつけ医を決めています。協力医療機関から月1度の往診があり24時間の対応でき、非常勤職員にも看護師がおり安心の体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして出来る事や出来ない事を伝え、了承をいただいているが、今後の方向性を模索している状況です。重度化の中では会議において職員間で、終末期のあり方や看取りについて検討機会を持っており方針の共有に向けた努力がなされています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しさの中で気軽過ぎる呼びかけや、ぞんざいな言葉遣いにならないように注意しています。マナーや接遇に関する研修を行い、職員の意識を高め対応しています。個人記録などは事務所の鍵のかかるロッカーに適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は出来るだけ皆で食べるようにしていますが、起床から睡眠まで利用者のペースを大切にしています。利用者の状況や意向を把握して、希望に沿った支援が出来るよう努力しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士のアドバイスを得ながら、職員は魚と肉が重ならないように昼夜の献立を立てています。調理や配下膳、食器洗いなど一緒に行い、職員も同じテーブルに付き同じ物を頂いています。時には希望に合わせてかに鍋を作ったり、出前の寿司を取るなど楽しんでもらうこともあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備し午前中の中の入浴が中心ですが、希望があればいつでも入れるようにしています。ほとんどの方は入浴を楽しみにされており、時には届き物のゆずを利用したゆず湯を楽しんだり、お湯をあふれさせるなど気持ちよく入れるようにしています。また、重度化にも対応できるようにリフト浴の設置もしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器の洗い物、掃除機を使って居室の清掃など出来る事を役割としています。日々歌声が聞こえ、歌う事が好きな利用者が多く楽しんでいます。市内の他のホームとの交流でおはぎ作りをしたり、法人内の施設に交流に出かけたりイベントに参加することも大きな楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見や紅葉を楽しみに2~3人ずつ出かけています。ホームの周辺には緑いっぱい草取りやベランダでの日光浴を日課とされています。今後に向けて皆が揃って外出が出来るように車の手配や、遠出の取り組みなど検討されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの立地条件が道路に面した急坂の上であり、環境的な問題や複合施設である等の理由で玄関には鍵がかけられています。ユニット間の出入り口は自由に行き来が出来ており、外に出たような利用者や訴えがあればすぐに職員が対応し、一緒に出かけるなどの支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物全体として夜間想定避難訓練を行っています。特養やホームの宿直、隣接の事務所の当直も含め法人の夜間の対応体制が確立されています。ホームは高台にあり、災害時の避難場所にも指定されており、地域理解はなされていますが、地域と一体となった訓練には至っていません。	○	地域との関わりも良好で、非常時の助け合いの暗黙の了解はあると思われませんが、今後に向けて消防署の立会いや地域の方々への呼びかけを行われた訓練が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記載しています。体重の増減など、医師のアドバイスや看護師からの視点も合わせ、利用者毎の健康状態が管理されています。粥や刻み食など利用者の状況に応じた支援が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から光があふれ、花が活けられ季節感が漂っています。対面式キッチンを利用者の背丈に合わせて手伝いやすいように設計されています。置コーナーやソファなど好みの居場所が見つけれられるように配置され、入居経過の短い利用者も徐々に馴染んで行けるようにされています。小学生の来訪土産にと色紙に書かれた文字が飾られ、子どもたちとの交流の思い出となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはトイレと洗面が設置され、吐き出し窓から直接庭に出る事が出来、プランターで花を育てられたり芝生の緑があり居心地の良い設計となっています。冷蔵庫やテレビ、筆筒や椅子、家族写真とそれぞれの思い出のあるものが持ち込まれ安心して居室で過ごせるように工夫がなされています。		